

水を題材とした幼児教育カリキュラムの開発

——領域「環境」の指導法の検討——

今村光章

Development of the early-childhood-education curriculum dealing with water
: Consideration of a method of teaching water in a kindergarten
Mitsuyuki IMAMURA

1 問題の所在

本稿の目的は、水を題材とした幼児教育カリキュラムを紹介し、自然と触れ合う遊びの体験や遊びの創造について考察することである。具体的に言えば、保育者らが議論して整理した水の特徴のまとめを示すとともに、水遊び活動の保育実践や記録を示して、領域「環境」の指導法のうち、水という自然物を扱った保育活動の資料として公表して、今後の保育活動に役立てることを狙いとしている。

幼児期の教材として水を採り上げる理由は二つある。

まず、従来の保育実践研究では、幼児と自然物である水との関係が十分に取上げられてこなかったからである。水は生活の場でも遊びの場でも非常に重要な自然物である。人間は淡水なしには生きていけない。だが、水は学校教育においてさほど主題化されるまでには至っていない。たしかに、小学校・中学校では、社会科や家庭科、総合的な学習の時間において、「水」を題材にした環境教育の総合学習単元の開発が散見される。貴重な淡水をどのように利用するのかという課題は環境教育や開発教育の課題でもある。また、環境保全においても安全な水の確保は重要な課題である。しかしながら、幼児期の教育・保育では、水という自然物に注目した保育活動報告が少ない。そのため本研究に着手する。

幼児の成長発達にとっては、人工物だけではなく、様々な自然物や動植物と触れ合う体験が必要である。人間が人工的に作り上げた製品や加工品ではなく、自然界にあるものとの関わり通じて、幼児は世界との関わりを十全に持つようになるからである。たとえば、幼児は石ころを拾って投げたり、枝を拾い上げて道具にしたり、どんぐりなどを収集したりする。家庭や園内で飼育されている動物とかかわったり栽培されている植物に触れたりすることによって、あるいはまた、人間が飼育・栽培していない動植物とも出会って、それらとの関わりを通じて成長する。このように、幼児の成長にとっては自然物とのかかわりが大切である。

だが、学校飼育動物の研究やいのちの教育をはじめとして、動植物との関わりについての先行研究は多々あるが、自然物、とりわけ水を題材として扱った保育実践に関する先行研究は数少ない。そのため領域「環境」において、水をどのように採り上げるかを課題とすることで、今後の保育実践の広がりが期待できると考えられる。以上が水を採り上げる第一の理由である。

第二の理由は、保育者としての経験年数や実年齢にかかわらず、幼稚園・保育所・認定こども園等の就学前教育施設において、幼児（3-6歳）が水と十分に遊べるような環境を整え、保育援助技術を磨いていく必要があるからである。昨今、自然物や動植物と触れ合う経験が乏しいまま大人になった保育者が増加しているといわれている。本稿で採り上げる水は、遊びの場でも生活の場でも使われる身近な自然物である。保護者ら大人がさほど意識しなくても、幼児は水に触れる。大人たちも触れる。その際、幼児期の教育を支える保育者は、遊びと生活の専門家でなければならない。だが、生活面で

水を大切に使うような指導は別として、保育者が水を通じた遊びの専門家として十分に経験を積んでいるようには看取できないため、この水遊びの分野を開拓する必要があると考える。

なお、水を題材にする幼児教育・保育という場合、遊び場面だけではなく、生活の場面での水の使い方についても採り上げるべきであろう。だが、今回は、遊び場面に限ることとし、生活のなかにおける水との関わりについては他日を待ちたい。

ところで、幼児と自然物のかかわりについては、たとえば、砂遊びについては従来からの研究の蓄積がある。また、枝に関する先行研究もある。だが、上述したように水を題材とした幼児教育プログラムの開発や、実践報告は数少ない。もっとも、水遊びおよび水泳指導に関するアンケート調査に関する研究（藤田・中野、2017）はある。加えて、幼児期の水泳関係の水遊び関係の論文もある（野中ら、2012）。しかしながら、これらの研究は水泳との関連に重点をおいており、水遊びを楽しむという観点はほとんど含まれていない。

同様に、小学校の水泳との関連では多くの先行研究がある。たとえば、低学年の水泳指導における児童のつまずきと、それに関する要因や学習環境の現状を調査し、基本の運動(水遊び)の学習指導の問題点を明らかにしようとした論文（神保ら、2007）があり、児童のつまずきでは、(1)水に対する恐怖心、(2)水深に対する不安感があることなどが明らかにされた。また、水泳関係以外で、生活科との関連が見出せる研究もある（伊藤ら、2005）。しかし、小学生を対象とした研究は、もっぱら水泳、体育が中心であり、領域「環境」との密接な関連は見受けられない。わずかに、幼児の水遊びに関する研究は、和田香誉（和田、2002）の研究があるものの、幼児の水遊びに関する研究論文は散見される程度とっていいだろう。このように、幼児期の水に関するカリキュラム研究はわずかである。

水は遊びのなかで使われるだけではなく、当然のことながら、生活のあらゆる場面で登場する。手洗いやうがい、食事場面、排泄の場面、掃除や洗濯など、感性を豊かにすれば、子どもたちが水を捉えなおす機会は多々ある。また、雨や雪、水たまりという事象も、川や湖、海、滝なども自然の水の一部である。こうした広い意味で、水を幼児期に体験することは重要な課題であると思われる。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中では、幼児が身近な事象に積極的に関わりながら思考力の芽生えを育てていくことや、自然に触れて感動したり身近な動植物に心を動かされたりする体験の中で、自然への愛情や畏敬の念、命あるものをいたわり、大切に作る気持ちを育むようにすることが求められている。この自然のなかに水も含まれていると考えてもよいだろう。

以上のことを踏まえて、本稿では、自然物でもあり自然環境である水に焦点をあて、幼児が水という自然と関わるなかで見せる姿から、水の特性を考えるとともに、幼児の遊びを提案したい。

2 研究の方法

岐阜県私立幼稚園連合会に所属する「学校法人・聖愛学園認定こども園：芽含(めぐみ)幼稚園」は、全日本私立幼稚園連合会の平成29年度東海北陸地区私立幼稚園教育研究(福井大会)を行うにあたり、2016年10月に第2分科会の担当となった。この第2分科会のテーマは、「自然と触れ合う遊びの体験や遊びの創造：遊びのエキスパートを目指してみませんか」である。このテーマを受け、芽含幼稚園は分科会発表のための研究に取り組むことになった。筆者の今村光章が指導助言者として加わり、2016年12月から約10ヶ月間、芽含幼稚園の教職員と協力して研究に着手することになった。上記の「問題の所在」で述べたような研究目的を持つ筆者の今村と研究発表の機会を得た幼稚園とが一致協力して、領域「環境」の指導法を探求することを目標に、「水を題材とした幼児教育カリキュラムの開発」を行った。その結果を次の「3 研究成果」で述べる。

まず、ごく簡単に芽含幼稚園の紹介をしておこう。芽含幼稚園は1926(大正15)年に日本基督教団・華陽教会付属のキリスト教主義保育として開園した。岐阜市内で最も古く、2017年現在、91年の伝統を誇る。この園は、岐阜市の中心にあり、近くには長良川鵜飼で有名な清流である長良川が市の東西

に流れ、市街地にありながら自然にも触れることのできる環境にある。また、2015（平成27）年からは、保育園機能を併せ持つ幼稚園型認定こども園として新たなスタートを切った。

2017年の園児数は51名。3歳児16名、4歳児18名、5歳児11名、1、2歳児6名で、クラス担当教員が7名である。3～5歳の縦割り保育を中心に、1・2歳児の6名も交えて家庭的な雰囲気の中、兄弟姉妹のように関わり合い育ち合う姿が自然に見られている。

さて、上記のこのテーマを受け、芽含幼稚園の教職員は真っ先に近くを流れる「長良川」を思い浮かべた。幼児とともに長良川の河原に石を拾いに行き、その石に思い思いのペイントをして楽しんだり、年長組のお泊り保育で根尾川の浅瀬で川遊びを体いっぱい存分に楽しんだりした。しかし、今回の研究に着手するにあたり、日々の生活の中で子ども達がより身近に感じ、子ども達が大好きでもある「水遊び」を研究テーマに取り上げ、子ども達と共に保育者も水の不思議さや特性に触れ、そして遊びへの発展を検討したいと考えた。その理由は、「はじめに」でも述べたように、幼児と自然物、とりわけ水との関係はそれほど主題化されておらず、しかも、先行研究も少ないからである。人間の日常生活になくてはならない水であるが、身の回りにあまりにも身近にありすぎるため、改めて水について深く考えたり知ったりすることがなかったと反省した。

そこで、本研究のねらいを①水の特性を知り、不思議さを見つけたり感じたりする、②水の特性を知り、それを遊びに発展させていく、③友達と協力して遊ぶ楽しさを味わっていく、と把握し研究に取り組んでいくことにした。

次に、これらのねらいを達成するため、保育者側の研究テーマを、④様々な水遊びの提供と発展への援助について研究する、⑤雨の日の水遊びについて、様々な取り組みを考え研究する、ということにした。研究期間は、2016年12月から2017年8月までである。その際、保育援助の出発点は幼児の意欲や好奇心であると把握し、子どもの発言や意欲からカリキュラムを開発していくことにした。そして、その活動を支える保育者の指導法を検討した。

3 研究成果

3-1 保育者による水の特性のまとめ

まずは保育者間で何度も話し合いを持ち、水の特性と、その特性を子ども達が知ったり気付いたりしていくためにはどのような遊びの提供が可能かを考え、遊びを列挙した。その結果、水遊びは自然発生的に始まることは少なく、保育者の働きかけ、遊びの提供が必要となることが自覚化された。そして、数多くの種類がある水遊びをどの様に提供していくかが課題であることを再認識した。また、縦割り保育を実践しているなかで、どの様に遊びの発展と展開を促していけるかも課題になった。さらに、幼児が全身で遊べる期間が限られていることや水道代の問題が生じることも自覚化した。

その結果、水の特性を知り遊びへの発展へとつなげるために、子どもの遊びを整理するとともに、提供してみる遊びを考え、〈表1〉を作成した。この表の縦軸は、水の特性を知るためのものであり、横軸には、保育者の遊びの提供の方法がかかれ、これまでの水遊びの内容が整理されている。五感を通じた遊びの展開例や、科学的な気づき・ひらめき、水を道具として使うという3つの視点が明確に示されている。発展のところに、さらに遊びを工夫する視点も示されている。

3-2 保育実践活動

同様に、保育者間で何度も話し合いを持ち、水の特性と、その特性を子ども達が知ったり気付いたりしていくためにはどのような遊びの提供が可能かを考え、保育者が意図的に水の題材化を図らなければ、遊びへの発展へつながらないと自覚し、遊びをデモンストレーション（提案）することにした。2017年度の具体的な遊びの内容が〈表2〉で示されている。デモンストレーションが途中から企画されておらず、また、導入に絵本を使用することも途中で中止されているが、これは、そうしたデモン

ストレーションや絵本の導入がなくても、子どもたちからの発想で水遊びの内容が決定していったことを示している。

表1

| 水の特性を知る | | 提供してみる遊び | 発展 |
|--------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 五感を通して | 冷たい、温かい | <ul style="list-style-type: none"> 水入りのペットボトルを日なた、日陰に置いて温度を感じる。 氷づくり（水、色水、花びら入りの水を前日に園庭に置いておく） | |
| | 感触、感覚 | <ul style="list-style-type: none"> かさビニール袋に水を入れるとプヨプヨしている かさビニール袋をヘビに見立てて、ジャンプごっこ、「ヘビの道」 お水をパチャパチャと化粧水のように見立ててお化粧ごっこ | |
| | 流れる感覚（掴もうとしても掴めない） | <ul style="list-style-type: none"> 流れる水をつかんでみる 様々な容器に入れて、流してみる ビニール袋に穴を空けて、ミニシャワー | |
| | 蒸発（放っておくと無くなる） | <ul style="list-style-type: none"> コンクリートに水でお絵かき、スタンプ遊び | |
| | 透き通ってキレイ | <ul style="list-style-type: none"> 色水遊び（絵の具で、食紅で、クレープ紙で、草花の汁を使って・・・） | <ul style="list-style-type: none"> チップ(色の元)を作り、それを自分達で混ぜて遊ぶ 色の調合etc. |
| | 光の反射がキレイ | <ul style="list-style-type: none"> 虹づくり（太陽光、見る角度、空気中の水分量） ホースで虹づくり 霧吹きで光を当てて虹が出来るか調べる（朝、昼、夕） | |
| | 音を感じる | <ul style="list-style-type: none"> 水面に水を注ぐ 水の中に小石や大石を入れてみて、音の違いを知る 牛乳瓶に水を入れて振ってみる ホースから板に思い切り水を当てる（「パチパチ」） 水面を叩く（様々な容器で行い音の違いを知る）（「パチャパチャ」「ポコポコ」「ドボン」「カッポン」） 雨の日に様々な容器で雨を受ける（「パンパン」「タタン」「カンカン」etc） ガラスコップに水を入れて叩くと音が変わる | <ul style="list-style-type: none"> 水笛づくり ガラスコップで音階がし ↓ みんなで合奏する |
| 科学的な気づき・ひらめき | 高い所から低い所へ流れる | <ul style="list-style-type: none"> とい遊び そうめん流し遊び（スズランテープ等を流して遊ぶ） 絵の具を流してアート ブルーシートの板道に水を流してスライダーごっこ | <ul style="list-style-type: none"> 水路づくり（ペットボトル、牛乳パックで） ピタゴラスイッチ（ビー玉など流してゲームに） 川づくり、ダムづくり |
| | 水に浮く、沈む | <ul style="list-style-type: none"> キラキラボトル作り（ペットボトルに浮く素材、沈む素材を入れて楽しむ） ワッシャー落とし、ビー玉落とし（水槽の中の的に向かって、入るかな？） 船遊び 魚釣り遊び 色袋釣り遊び | <ul style="list-style-type: none"> ゲームに発展 |
| | 水の不思議 | <ul style="list-style-type: none"> 水の表面張力（水の入ったコップに少しずつ小石を入れていく、横からのぞくと水の盛り上がりが見える） あふれ遊び マーブリング スライム、ポティーパーティンク 水中エレベーター | |
| 道具として | 水を押し出す | <ul style="list-style-type: none"> 水鉄砲 マヨネーズ、ケチャップの容器から押し出す ↓ ペットボトルで水鉄砲 ↓ 竹筒で水鉄砲 的あてゲーム | |
| | シャボン玉遊び | <ul style="list-style-type: none"> シャボン玉でアート 大きなシャボン玉 色々な形のシャボン玉 洗濯ごっこ 泡ごっこ | |
| | 生命の成長・維持を感じる | <ul style="list-style-type: none"> 花や野菜への水やり体験 | |
| | 雨の日の遊び | <ul style="list-style-type: none"> しずくの音を楽しもう（缶やプラスチック等を色々な容器でしずくを受ける） 絵の具を塗った画用紙で受けてアート 水たまり遊び（つなげたり大きくしたり） | |

表2

| 実施日程 | デモンストレーション | 導入に使用した絵本・紙芝居等 | 水あそびの内容 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 4/24(月)  | <ul style="list-style-type: none"> 水の形の変化 水の色を知る 水の音を知る(容器を変えて) 浮く・沈む(ピンポン玉、石等) | | <ul style="list-style-type: none"> 花の色水遊び①(パンジー、クローバー、ヨモギ、菜の花、タンポポで色水作り) シャボン玉遊び① 水でくっつくコーン遊び 水の音遊び |
| ② 5/19(金)  | <ul style="list-style-type: none"> 流れる性質を知る 水の音を知る | 絵本 「みず ちゃぼん」 | <ul style="list-style-type: none"> コンクリートの地面にスポンジでお絵かき シャボン玉遊び② 花の色水遊び② |
| ③ 5/22(月)  | <ul style="list-style-type: none"> 流れる性質を知る | | <ul style="list-style-type: none"> とい遊び① 泡立て遊び① 花の色水の水を、水に浮かばせて遊ぶ |
| ④ 5/25(月)  | <ul style="list-style-type: none"> 雨水について考える ガラスコップに水を入れ、叩くと音が鳴ること、水量による音の変化を知る | ペーパーサート 「あめあめふれふれ」 | <ul style="list-style-type: none"> 雨の中のお散歩 にじみ絵 泡立て遊び② |
| 5月誕生日会  | <ul style="list-style-type: none"> 「雨ふりくまのこ」の人形劇を見る 森の音楽家 | 雨ふりくまのこ うた | <ul style="list-style-type: none"> 水笛遊び① |
| ⑤ 6/2(金)  | | | <ul style="list-style-type: none"> にじみ絵 コップの演奏遊び 水笛遊び② |
| ⑥ 6/15(木)  | | 紙芝居 「みずってふしぎ」 | <ul style="list-style-type: none"> とい遊び②(砂場に穴を掘ってダイナミックに!) 水笛遊び② 音遊び 色水づくり遊び③ |
| ⑦ 6/21(水)  | | | <ul style="list-style-type: none"> 色水づくり遊び④⇒染め紙遊び (年長) ・ガラスコップ演奏遊び |
| ⑧ 6/22(木)  | | | (年長) ・とい遊び(ジュース屋さんごっこ)① |
| ⑨ 6/23(金)  | | | (年長) ・とい遊び(ジュース屋さんごっこ)② |
| ⑩ 6/26(月)  | | | (年長) ・自動販売機づくり① ・お金づくり |
| ⑪ 6/28(水)  | | | (年長) ・自動販売機づくり② |
| ⑫ 6/30(金)  | | | (年長) ・ガラスコップ演奏遊び② ・自動販売機づくり③ |
| ⑬ 7/5(水)  | | | 水の音楽会 |
| ⑭ 7/6(木)  | | | 水まつり |

3-3 水遊びのエキスパートを目指すために

このような保育実践から、水遊びのエキスパートを目指すための遊びとして、①ジュースの自動販売機ごっこ、②砂場での泥プール遊び、③雨の日遊び、④水の音楽会、の4つをおこなった。このうち、他の園でも実践・応用の可能性が高い①ジュースの自動販売機ごっこについて、その活動の報告を行っておう。②～④はごく簡単に紹介するにとどめよう。

①ジュースの自動販売機ごっこ

この遊び子どもたちからの発信をうけ保育者が真摯に対応した結果成立した斬新な水遊びである。色水遊びから、子どもたちの豊かな発想で思わぬ方向へと展開していった遊びであった。保育者は、子どもたちのイメージをどのように具体化していくか、作る物の材料の選び方や提供の仕方など、援助の方法に悩み、難しさを感じた。しかし、自動販売機ごっこ遊びが最高に盛り上がる「水祭り」当

日の売る側の年長児の誇らしげな様子と、買う側の年中・年少・未満児の喜ぶ笑顔は素敵だった。その喜ぶ様子を見て、嬉しそうにする年長児たちの姿がまた印象的であり、心温まる思いであった。その内容を詳しく記す。

■ジュースの自動販売機ごっこ (1)

前日、「ジュース」というイメージが湧き、子ども達が共通して遊び始めたことから、色水を受ける容器を500ml ペットボトルを切って作った容器から本物のプラコップに変更したところ、雰囲気の効果もあり、とても盛り上がった。これにより、流す側から受ける側のメンバーが増え、混色を楽しんだ。「麦茶」「カルピス」等のオリジナルの色水作りも盛り上がり、イメージを膨らませて楽しむ姿がみられた。

注ぎ口をカットし、色水を入れやすく調整したことで、こぼれる量が減りスムーズに色水が入れるので楽しさも増した。水が無くなったなら自分達で絵の具を溶いて色水作りをしているうちに、ある子どもはホースを持ち友達のバケツに注いだり、レーンに流したりと役割が自然に生まれており、興味深かった。

給食を食べながら今日の振り返りをしていると、「ジュースの自動販売機を作ろうよ」という声が出た。給食で食べていたゼリーカップを見た子どもが「これをお金にしてみたら？」と提案。「そうだね、お金をガッシャーンと入れてジュースが出てくるってのはどう？」「それから1つはわからないところがあって、何ジュースが出てくるのかナイショっていうのはどう？」とイメージがどんどん膨らみ、共有して楽しむ姿がみられた。「銀行もいるねー」「受け付けは私がする」等の楽しい声が上がった。

| | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| 6/23 (金) (年長児) | | 友達と好きな色水を選んで作り、流したり、受けたりしながらジュース屋さんごっこを楽しむ。 | |
| 5歳児 | 9名(2名欠席) | ね・色水をジュースに代えて、流しておたり | ら・受けたりしながらジュース屋さんごっこを楽しむ。 |
| 6月23日(金) | 10:30~11:50 | 場所 | 園庭 |
| 活動の内容・環境準備・子どもの姿・保育者の援助 | | | |
| <p>昨日選んだ色は違ふ色を選ば、自分でバケツに色水作りをする。</p> <p>オレンジ、赤、セリ、緑の色を選ば、昨日は違うメンバーでチームになり、出たからから、次は色水を流して楽しんでいる。</p> <p>昨日は違う、本物のプラスチックカップを用意しておく</p> | | <p>ジュースを受ける側の子が増え、混色を繰り返して楽しんでいる。</p> <p>何色も混色して「麦茶みたい」「カルピスみたい」等、色によってジュースの味を想像して楽しむ姿がみられる。</p> <p>ジュースがなくなると、自分で色水の具を溶き、新たにジュース作りをしている。</p> <p>何色か色水作りを繰り返すうちに、①はホースを持ちバケツに注いだり、レーンに流したりと役割が自然に決まっていた。</p> <p>降りて選んでいた1、2歳児がジュースを受け取るのを援助する</p> <p>給食を食べながら今日の振り返りをする中で、①「お金のイメージが膨らんだ」②「お金のイメージが膨らんだ」③「お金のイメージが膨らんだ」④「お金のイメージが膨らんだ」⑤「お金のイメージが膨らんだ」⑥「お金のイメージが膨らんだ」⑦「お金のイメージが膨らんだ」⑧「お金のイメージが膨らんだ」⑨「お金のイメージが膨らんだ」⑩「お金のイメージが膨らんだ」</p> | |

■ジュースの自動販売機ごっこ (2)

「自動販売機作りをしよう」という子ども達の声から、実際に自動販売機を作るにあたって、どのようにしてイメージを子ども達の中で膨らませたり、広げたりできるのかと悩み、環境設定や発想の伝え方について考えた。

子ども達に自動販売機の画像を複数見せると、身近なものであったためか、より具体的なイメージにつながったようで、活発な意見が出てきた。まず、「ゼリーカップでお金作りをしたい」との声が上がっていたので、アルミホイルや油性ペンを用意しておいたところ、イメージがかなり具体的に絞られていたようで、女兒らを中心にホイルを中に丸めて入れたり包んだりするうちに包むのが一番良いという結論になり、作り上げることができていた。一つできると他児らへも一気に拡散し、共通のイメージでどんどん量産されていく姿が印象的であった。

ジュースの銘柄がわかるようなボタン作りを各チームに分かれて作業していたが、用意していたのは色画用紙のみであったので、もっと他にも立体的な廃材やテープ類等を用意しておけば、もっと独創的なものになったかも知れないと反省であった。「ペットボトルに本物の色水を入れてくっつけてみたらいいんじゃない?」との声が出た。次回には空のペットボトルを用意しておき、イメージの広がりから展開発展していくようにしようということになった。

■ジュースの自動販売機ごっこ(3)

より自動販売機らしさを求め、年長

児達で考えていけるように、なるべく保育者の意見を言い過ぎたり押し付けたりしないよう配慮した結果、お金のレーン作りの活動でも、牛乳パックを縦向きに繋げたら良いか横向きに繋げたら良いかなどと活発な意見が出て、試行錯誤する姿がみられた。保育者の言葉掛けの大切さ、見守ることの大切さを改めて感じた。

一度、年長児達の共通のイメージ、目的ができ上がると、力強く牛乳パックを縦に繋げていく姿があり、目的達成に向けて協力し合えることが年長児ならではの発達の姿だと感じた。また、障がいがあり手の力の弱い子には、切った布ガムテープを「ハイ○○ちゃん」と渡してあげる姿も自然に見られ、優しさ思いやりの気持ちの育ちを改めて感じ、微笑ましく感じた。

自動販売機のボードは園に既存の物(緑色)を使用したが、向こう側が見通せず、ジュースの注文の声が聞き取りにくく、ジュースの流れてくる様子が見えづらといった心配が出てきた。ボードの高さも高すぎるため、高さをカットし、圧迫感を減らしつつ、一部分を透明の板に替え、少しでも向こう側が見えるようにしてみた。お金のレーンが一つしかないので大勢のお客さん(年少児と年中児)に対応しにくいとも考えられるので、もう一つ、お金の入れるところを作っていこうかと思う。

■ジュースの自動販売機ごっこ(4)

雨のため、室内での活動となり、色水の代わりにピンポン玉をレーンに流してみたが、それがかえって面白く、年長児も夢中になって楽しんでいった。年長児のみで楽しんだ後、初めて年中、年少児も呼んであげることを提案すると、全員が大張り切りで一層チームワ

| | |
|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 6/26 (月) 年長児・自動販売機作りをする① (色画用紙でジュースのボタンを作る?) お金を作る! | |
| 5歳児 11名 | ねらい 「自動販売機」のイメージを膨らませたり、あげたりしながら、実際に販売機を作り出す。 |
| 6月26日(月) 天気 10:30 場所 保育室 12:00 | 活動の内容 ・ 環境準備 ・ 子どもの姿 ・ 保育者の援助 |

「おかねを入れるところがある。」「おたんとかいてあるよね。」
「あたりもてるがあるよ、昔はは活発な意見が出る。」
「自動販売機」のイメージを膨らませ、イメージを膨らませたり、友達同士のイメージを膨らませるために援助していく。

- チームに分かれて、色画用紙を使い、お金のシースをかわるお金のシースを描いたり、切り取り、ボードに貼りつけていく。
- シースのボタンの数字を思い思いに書く。
- 「お金のシース」の数字を思い思いに書く。
- 「お金のシース」の数字を思い思いに書く。
- 「お金のシース」の数字を思い思いに書く。
- 「お金のシース」の数字を思い思いに書く。
- 「お金のシース」の数字を思い思いに書く。
- 「お金のシース」の数字を思い思いに書く。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

| | |
|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 6/28 (水) 年長児・自動販売機作りをする② (ペットボトルを使って本物のジュース販売機みたいになろう!) お金がうまく流れるかな? | |
| 5歳児 11名 | ねらい より本物らしく見える様な販売機について考えたり、工夫したりしていく。 |
| 6月28日(水) 天気 11:10 場所 保育室 12:00 | 活動の内容 ・ 環境準備 ・ 子どもの姿 ・ 保育者の援助 |

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

「お金のシース」の数字を思い思いに書く。透明レーンを使う。透明レーンの板が欠けるように、出口の穴を開けておく。

ーク力が増し、販売役に徹している姿が印象的であった。また、年中、年少児がこぼしてしまったピンポン玉をそっと拾いに販売機の表側に来て渡してあげる年長児もいて、小さい子加わったことによってより年長児らしい責任感や優しさが生まれていることに気づいた。年中児・年少児も初めてのことで、ジュースの種類を選ぶのに戸惑う姿が多かった。また、並ぶ列が偏ってしまいがちで、あまり注文の来なかった年長児チームからは不満の声が挙がっていた。特にハテナのジュース(どんな色のジュースが出てくるかわからない)の魅力が伝わり切っていなかったため、看板作りや宣伝活動等に活動を発展させていくことを年長児達に提案した。以上が、自動販売機ごっごの内容である。

次に、②砂場での泥プール遊びについて、簡単に説明しておこう。

とい遊びからの発展で、といを砂場に向けて入れ水を流した。砂場に大きな穴を掘りプールに見立て水を入れた。砂場の穴にはブルーシートを敷く。ブルーシートのおかげで水は砂に浸みていかず、プールのようなになる。綺麗な水のプールと違い、活動もダイナミックになり穴が削れていく事にも興味が向いていた。子どもたちは水が増えていく毎に喜んだ。子どもたちは、ダイナミックな泥遊びをし、大きな歓声と共に身体を使いこんでいた。水に砂や泥を加える点の斬新さはないが、砂場を泥場、泥水場にするという案は、興味深いだろう。

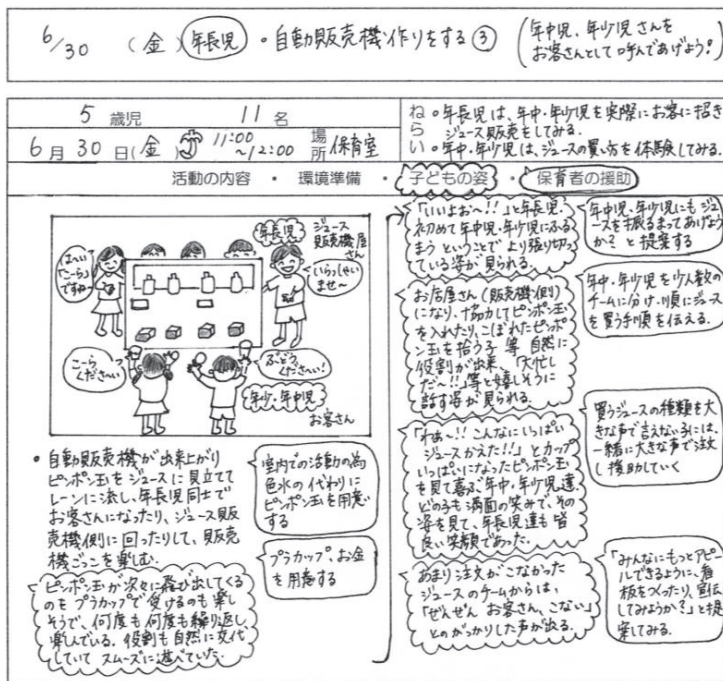
まだ、③雨の日の外遊びも実践した。雨の日は室内で遊ぶというイメージがあるが、視点を変えて「雨」を素材として取り入れ楽しんでみた。まず、「雨の日のお散歩」では、小雨が降るなか透明なビニールシート4人で支えて屋根に見立てて園庭のお散歩をした。雨粒の落ちてくる様子に感動したり、花びらを屋根の上に乗せて下から覗いてみたり、とても良い笑顔で大いに楽しんで参加していた。大雨の中でのダイナミックな雨遊びも計画していたが、天候と子どもたちの体調の調整が上手くいかず実行できなかった。

さらに、④水の音楽会も実施した。水の性質の中で、特に子どもたちが好きで気に入ったのが、「水にはいろんな音がある」という発見であった。様々な水遊びの活動を通して、とくに「音」について焦点を当てて遊び込み、その集大成として「水の音楽会」を開く事ができ、楽しめた。水のマラカス、水面に器をかぶせて音を楽しむ、水笛、ガラスコップなどを作り、演奏した。子どもたちは好きな音を選んで参加したが、家でも真似て楽しむ様子が見られた。年長児はガラスコップ演奏という少し難しい課題に取り組んだが、何度か練習を重ねるなかで、皆の前で発表することができて達成感を感じることができ良い経験となった。水と音を複合化するということが新たな視点となる。

4. 研究のまとめ

本研究においては、以下に述べる9つの点で成果が得られた。その成果について述べておきたい。

第一に、子どもたちのなかに科学的な視点が芽生えた。「水、水遊び」のテーマのもとで、子どもたちは、プール遊びや水の感触を知るだけでなく、水の不思議や特性についても興味が向いた。様々な角度からの気付きと発見にもつながり、子どもたちの科学的な視野の芽生えにまで及ぶことになった。



保育者が持ちかける「水実験」——形を変えて流れる水、様々な音へと変化する水、虹や氷など温度によって形を変化させていく水など——にいつの間にか子どもたちは虜になり、「明日は水遊びをするよ」の保育者の声に「ワーッ」と大歓声になっていた。また、子どもたちは家庭に帰っても「水実験」を繰り返し広げた。家庭で発見したことを、子どもたちは目を輝かせて園でも報告した。さらに、「実験」の成果品を持って登園した子どもの姿も広がっていき、他児への良い影響力にもなった。

第二に、子どもの意欲が引き出された。保育者が水の様々な特性について学び、不思議に思う内容を丁寧に取り上げ、子どもたちに「デモンストレーション」という形で投げかけた。その結果、子どもたちは水に関する活動を大変興味を持って受入れ、子どもたち一人ひとりが「やってみたい」「ためてみたい」という意欲を持つようになった。その意欲は水遊びのみにとどまらず、園での生活全体にも反映された。そして、子どもたちの表情が活気のあるものとなり、生活全体に張りややる気が感じられるようになった。

第三に、水遊びをしていく中で子ども同士の関係性が深くなった。たとえば、色水作りでは、袋の中の花をしっかりと揉むことで色が濃く出ること、あるいは、クレープ紙を何色も入れることで色が変化していくことなど、年長の子どもの発見が年少の子どもたちに伝えられ、共有され、双方の発達・発展につながっていく様子が見られた。そのなかでは、年齢が上の子どもが下の子どものできないところをそっと手助けしてあげるといった優しい姿がみられた。

第四に、保護者との連携ができた。保護者の声のなかで、「水実験」が家庭での展開を見せ、子どもたちが保護者にも「教えてあげたい」「もう一度実験を自分でしたい」と行動に移していく様子が見られた。また、園で子どもたちが水遊びを楽しんだり、その中でつぶやいたりしている言葉などを保育者が拾い、「水あそびだより」として保護者に伝える工夫をした。すると、子どもたちの様子がますます具体的に伝わるようになった。保護者も子どもたちの「水実験」を温かく受け止めて、時には共に親子で「水実験」を楽しみ共有した。このように、水遊びを通して、園と家庭とが連携し子どもたちを取り囲んでいくことができ、双方の関係性がますます密接なものになっていった。

第五に、縦割り保育・横割り保育のなかでの再発見があった。普段3～5歳児の縦割り保育を行っており、水遊びにおいても前半は縦割り保育のなかで実施していった。その中で見えてきた良かった点は、年長児の遊び方に大いに刺激をもらい、年長児の教えてあげる姿や、年中児などの学ぶ姿が常にみられたこと、年長児たちが自分たちの遊びを多少我慢してでも、自分より年少の子どもを受け入れてあげる姿勢が自然に見られ、共に共有できる遊びであったこと、一つのテーマを進めていくうちに協力してやってみようとする姿や役割を分担していく姿が見られたことである。

反面では、横割り保育の中で、活動を進めていくうちに、保育者が提供する水遊びが受動的で遊びの深まりが感じられないという反省点が出てきた。そのため、年長児がとい遊びをしながら発する会話に聞き入った。そして、とい遊びから年長児だけで遊びを展開することになった。年長児同士、遠慮のない意見交換が見られた。その結果、とい遊びから、色水をながしてみようということになり、「ジュースやさんみたい」という声があがり、自然と「自動販売機を作ろう」「お金もいるね」ということになり、自動販売機やさんになってみんなを呼んであげようと、遊びながら話し合う姿がよく見られ、「こうしたい、やってみたい」という子どもたち主体の活動につながった。また、年長児としての責任感が一気に芽生える姿が見られた。

水祭りの日、年長児が自動販売機屋さんとしてジュースを全員に売り終えた後、買う側にまわり、年中児・年少児が自然に自動販売機屋さんになり売り始めた。自動販売機屋さんをやってみたかった子どもたちは、あこがれが実現し、相談しながら生き生きとした表情でお店を進めていた。水遊びの活動を通して、友達が発見した不思議さについて、真似てみたり不思議さを共有したりと友だちの存在を改めて受け入れたり、「すごいね」と共感する姿が生まれた。以上のように、子どもたちが年齢の差を越えて、お互いを認め合える良いきっかけとなった。

第六に、今回の研究での一番の成果は保育者のスキルアップだった。夏といえば、プール遊び、泥んこ、色水遊び程度の遊びしか取り入れてこなかった。だが、今回、水遊びには様々な種類や広がりがあることを改めて知った。また、水遊びは夏以外にでも沢山楽しむことができることも新たな発見であった。このように、個々の保育者が「水」に注目して様々な水遊びを考え、調べ、子どもたちにどのように提供していったら良いかと努力していくことが、個々の保育者の保育技術の向上へとつながった。

第七に、保育者同士のチームワークが強まった。水遊びでは保育者が持ちかけ提供する遊び方が主であった。そのため、「どんな水遊びがあるのか」、「やってみたい水遊び」や「提供してみたい水遊びは何か」など、保育者間での相談が不可欠であった。そして、保育者同士の話し合いや意見交換のなかでは、子どもたちの生き生きした姿を伝えあい、様々な角度から子ども一人ひとりについて捉えるきっかけができた。結果として、子どもたちに対しての理解が深まり、保育者同士のチームワークの強まりをも感じた。小さな一つずつの遊びから、園全体での「水まつり」へと進めていく中で、一人の保育者の気付きを全員が共有し、話し合い、当日の子どもたちの動き、保育者の動きを考え出すことができた。

第八に、子どもと向き合う大切さを再認識した。水遊びが発展していく為には、遊び込んでいる場面を見逃さず捕らえられるか、子どもたちと共感する力を求められた。私たちが活動の中で大切にしてきたことは、帰りの会の中で「その日の振り返り」を行い、子どもたちに「楽しかった事」「発見した事」「次にどんな事をどんな形で進めたいか」などを聞き取っていった。大人では想像もしなかった独創的な意見が子どもから出てくることがあり、とても楽しい振り返りであった。このように、改めて子どもたちと向き合う大切さと楽しさを学んだ。

最後に、保育者らが保育の楽しみが分かったと実感した。保育者らが水について深く掘り下げ考えてみると発見が沢山あった。身の回りの現象や物事においても、ふと立ち止まって考えて見る癖がつき、「なぜ？」と疑問に思うことが増えた。子どもたちと一緒に考えてみたり、体いっぱい子どもたちと体験したりすることは楽しい限りであった。

以上のように、本研究の成果としては、保育者たちは、幼児の①科学的な視点が芽生え、②意欲が引き出された。また、③子ども同士の関係性が深くなり、④保護者とも連携ができた。⑤縦割り保育・横割り保育の中での再発見があり、⑥個々の保育者のスキルアップもでき、⑦チームワークが強まった。しかも、⑧子どもと向き合う大切さが理解でき、⑨保育の楽しみを感じることができた。

保育とは、環境からの働きかけを前提とした営みである。その環境のひとつが水である。水環境がなければ、人間は生活することも生存することもできない。保育は「環境を通して行う」が、保育の活動と水とは切っても切れない関係がある。水を通して行う保育実践が幼児期の教育と保育の教材として強調されたことはなかったように思われるが、環境教育的な意図からも、幼少期に水について親しみを持ち、考えることが重要であると思われる。

冒頭に述べたように、本稿では、遊びの場面しかとりあげていない。しかし、生活場面で幼児がどのように水を使うのかについても研究が必要である。この生活のなかの水については今後の研究課題としたい。

※付記：本研究の内容は、2017年7月28日に、全日本私立幼稚園連合会・平成29年度東海北陸地区私立幼稚園教育研究（福井大会）の第2分科会：テーマ「自然と触れ合う遊びの体験や遊びの創造～遊びのエキスパートを目指してみませんか～」で発表した内容に、大幅に加除修正を加えたものである。研究の機会を与您いただきました、全日本私立幼稚園連合会、ならびに、岐阜県私立幼稚園連合会に心よりお礼申し上げます。

註

- ・伊藤宏・松本知栄子・望月信子ら、静岡大学教育学部附属養護学校小学部の生活単元学習「水遊び」についての研究、静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇 37、113-125.
- ・神保昌子・平野智之・加藤謙一、2007、基本の運動(水遊び)における学習環境の現状と課題：M市小学校の調査結果をもとに、宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要 30、379-388.
- ・野中章臣・加藤渡・黒柳淳、2012、幼稚園・保育所における水遊び：水泳指導の実態と課題、修文大学短期大学部紀要 51、113-116.
- ・藤田公和・中野真知子、2017、幼稚園・保育所における水遊び・水泳指導の実態と小学校体育「水泳」との系統性・連携について、桜花学園大学保育学部研究紀要 (15)、127-135.
- ・和田香誉、2002、幼児の水遊びにおける社会性に関する研究：水遊びを知る、日本教育心理学会総会発表論文集 44、207.

